

パソコン乗っ取り

JJ1SXA/池

10月の始め、ウイルスに感染させたパソコンを踏み台にして、脅迫メールを送るといふ事件がありました、知らない内に何時加害者、容疑者の立場になるかも知れないと、警鐘が鳴らされました、怖いですね、私も無料のソフトを結構使いますので、気をつけなければいけません、原則的に安心なサイトから以外はダウンロードしませんし、ブラウザやセキュリティソフトのバージョンアップは必ずやっています。(と言っても、100パーセント安全なわけではないですが…)

遠隔ソフトを送りつけるのはごく一般的な方法らしいですし、また、乗っ取ったパソコンから、外国の複数サーバーを経由してメールを送るのも、一寸知識があれば、そんなに難しいことでは無いそうです。

中国では、日本からのアクセスは拒否するような設定をしてホームページを見ることができないようにしていることも多いのですが、それを簡単に見ることもそんなに難しいことでは無いそうです。

この場合は、日本のIPアドレスでアクセスされたものを拒否する仕掛けになっているので、外国からアクセスすれば大丈夫なわけで、外国からアクセスといっても、要は外国のサーバーからアクセスするだけのこと、ここでプロキシサーバーの出番です。

プロキシサーバーは、企業が有料で公開している物以外は、公式に公開されていません、無料のプロキシサーバーは、公式には公開できないのです、またアクセス制限をされないように、常にプロキシサーバーのアドレスが変更されているのですぐに使いなくなり、プロキシサーバーを外部から発見することは非常に困難な上に、例えネットでプロキシサーバーのアドレスリストを発見したとしても、既に使いなくなっている場合が多いようですが、世界最高品質のプロキシサーバーリストを提供するプロキシサーバー専門サーチエンジンがあり、常に最新のプロキシサーバーアドレスを用途別に検索することができるようで、こちらを見つけて使えば良いとのこと。

プロキシサーバーには個人情報やサーバーに漏らさない匿名プロキシサーバーと、IPアドレスなどの個人情報がサーバーに漏れる非匿名プロキシサーバーがあるそうで、匿名プロキシサーバーは、匿名という事もあり利用数が非常に多い為、アクセス速度が低い場合が多く、場合によってはアクセス過多で利用できない場合があり、また、サーバーの寿命も短い為、すぐに利用できなくなることが多いようです。

原理はわかっても、私の知識の範囲ではプロキシサーバーを使って外国の複数サーバーを経由するなどいうことは、とても怖くてできませんし、必要性もありませんが、一寸知識のある面々は、いとも簡単に使いこなして、メールの発信元を隠したり、アクセス制限のかかったホームページを閲覧したりするのは当りまえのようです。

ネットにつなぐということは、便利さの反面、重大な危険がうようよ、怖いですね。